

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は109円台でのしっかりとした推移か

[12月30日から年末年始2週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月23日～12月27日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.40	109.68(26)	109.31(25)	109.49	+0.05
ユーロ・ドル	1.1081	1.1139(27)	1.1069(24)	1.1137	+0.0058
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,837.72	+21.09	日本10年債利回り	0.000	-0.014
ダウ平均株価	28,621.39	+244.43	米10年債利回り	1.894	-0.023

<来週の主要経済統計等>

<12月>

30日 スイス12月KOF先行指数

米12月シカゴ購買部協会景気指数

31日 中国12月製造業購買担当景気指数

米10月住宅価格指数、米10月S&Pケースシラー住宅価格指数

米12月消費者信頼感指数

<1月>

1日 元旦 ※世界的に休み

2日 中国12月財新製造業購買担当景気指数

米新規失業保険申請件数

3日 独12月雇用統計

独12月消費者物価指数速報値

米12月ISM製造業景況指数、米11月建設支出

米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録(12月10～11日分)

6日 ユーロ圏11月生産者物価指数

7日 スイス12月消費者物価指数

ユーロ圏11月小売売上高指数、ユーロ圏12月消費者物価指数

米11月貿易収支

カナダ11月貿易収支

米12月ISM非製造業景況指数、米11月製造業受注

カナダ12月Ivey購買部協会指数

8日 豪11月住宅建設許可件数

独11月製造業受注指数

米MBA住宅ローン申請件数

米12月ADP雇用統計

9日 豪11月貿易収支

独11月貿易収支、独11月経常収支、独11月鉱工業生産指数

スイス11月小売売上高

ユーロ圏11月雇用統計

米新規失業保険申請件数

10日 日本11月勤労者世帯家計調査

豪11月小売売上高

日本11月景気動向指数速報値

スイス12月雇用統計

英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支

カナダ12月雇用統計
米12月雇用統計

【前回のレビュー】ドル円は109円接近では買いに支えられる展開となりそうだが、109.70円台では売り圧力に押されやすくなっており、110円手前での上値の重さが続くと思われる。このため、ドル円は109円台で落ち着いた動きが見込まれるとした。

【ドル円は109円台半ばを中心とした推移】

ドル円は週の後半まで109.40円を中心とした狭いレンジでの膠着状態が続いた。クリスマス明けの26日の東京市場で、実需とみられる仲値絡みでのドル買い円売りが入ったと見られ、109.50円超えまで上昇。さらにクリスマス明けで再開した米株式市場で、ナスダックが史上初めて9000ポイントを超えるなど、米主要株価指数が軒並みの史上最高値更新を記録したことを好感したドル買い円売りが加わり、109.60円台まで上値を伸ばした。

もっとも翌27日にはポジション調整の動きから109.50円割れを付けるなど、ドル買い円売りも続かず。109円台半ばを中心としたレンジ取引の中での振幅という格好になった。

年末年始で日本勢の多くが取引を手控えるとみられるため、ドル円はこの後も109円台半ばを中心としたレンジ取引が続くそう。110円手前にはオプション取引などに絡んだドル売り注文が並んでいると見られ、取引参加者が少ない中で、売りをこなして上値を付けるには勢い不足となりそう。

もっとも、米株高の動きにみられるように、市場全体でリスク選好の動きが広がっており、ドル円も下がったところでは買いが出る流れに。上下ともにやや動きにくい展開が2020年初めも継続となりそう。

ドル円の目先の予想レンジは、108.90～110.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、12月30日に米12月シカゴ購買部協会景気指数、31日に米10月住宅価格指数、米10月S&Pケースシラー住宅価格指数、米12月消費者信頼感指数、1月1日は元旦で休み、2日に米新規失業保険申請件数、3日に米12月ISM製造業景況指数、米11月建設支出、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録(12月10～11日分)、7日に米11月貿易収支、米12月ISM非製造業景況指数、米11月製造業受注、8日に米12月ADP雇用統計、9日に米新規失業保険申請件数、10日に日本11月勤労者世帯家計調査、日本11月景気動向指数速報値、米12月雇用統計などがある。

【ユーロドルはやや堅調地合い】

ユーロドルは週の後半に入って、何度か頭を抑えていた1.11ちょうどの水準をしっかりと超えてくる動きとなった。ユーロ自体に大きな買い材料が出たというわけではなく、リスク選好の流れの中でユーロ円に買いが入ったことや、20日、24日と二度にわたったユーロ売りドル買いがいずれも1.1060台で止められたことで、短期筋からのポジション調整でのユーロ買いが入ったことなどが、ユーロ高ドル安の流れにつながった。

もっとも12日につけた1.1200手前まではまだ遠く、今月のレンジの中での推移で、新たな方向性は出ていない。今週は米株式動向などにらみながら、次の方向性を探る展開に。

ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1070～1.1170ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12月30日にスイス12月KOF先行指数、31日に中国12月製造業購買担当景気指数、1月2日に中国12月財新製造業購

買担当景気指数、3日に独12月雇用統計、独12月消費者物価指数速報値、6日にユーロ圏11月生産者物価指数、7日にスイス12月消費者物価指数、ユーロ圏11月小売売上高指数、ユーロ圏12月消費者物価指数、カナダ11月貿易収支、カナダ12月Ivey購買部協会指数、8日に豪11月住宅建設許可件数、独11月製造業受注指数、9日に豪11月貿易収支、独11月貿易収支、独11月経常収支、独11月鉱工業生産指数、スイス11月小売売上高、ユーロ圏11月雇用統計、10日に豪11月小売売上高、スイス12月雇用統計、英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支、カナダ12月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 山岡和雅

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。